

先入観を捨て、尊重する

私は、特に変わったことはなく、学校がある日には学校に行って授業を受けたり、休みの日には受験勉強をしたりして毎日楽しく生活しています。そんな私ですが、人権や平等について考える機会がときどきあり、その度にいろいろなことを感じたり、たくさんのことを考えたりしてきました。

まず一つめが、私の向かいの家に住んでいる家族の長男で、私より三歳ほど年齢が上の人と交流したときです。実はその人はダウン症です。いつも見ていると、目線がよく泳いでいて、周りの人とあまりコミュニケーションがとれていません。だから私は、かわいそうなので、会っても会話はせず、そっとしておこうといつも思っていました。そのように考えていた中で、ある日偶然その人と家の前の道で出会いました。そのとき、その人は私の方を向いて、少し笑みを浮かべながら大きな声で、

「こんにちは。」

とあいさつをしてくれました。私は驚きながらも、あいさつをしてくれたのだから、自分もあいさつをしようと思い、同じようにあいさつをしました。この行動があった日の夜、私は自分の部屋の中で、今まで知らない間に差別をしてしまっていたのではないかと思いました。本当はあいさつもできて笑顔も素敵なのに、自分が間違った先入観をもってしまっていたのだと反省しました。同時に、現在の世界では障害のある方や、黒人の方、貧しい方などたくさんの人に対する人権を無視した発言や行動が問題となっているけれど、この問題は差別をする人の先入観がひとつの原因になっていると思いました。

二つめは今年の五月に私に起こった出来事です。冒頭で学校がある日には学校に行って授業を受けていると書きましたが、そうでなくなった期間がありました。なぜ学校に行けなくなったかという、私と同じ部活動の部員が新型コロナウイルスに感染してしまい、私も濃厚接触者と判定されたからです。この事実を耳にしたとき、私は二つの恐怖を味わいました。一つは連日ワイドショーをにぎわせている新型コロナウイルスがいよいよ身近に迫り、自分も感染しているのではないかという恐怖です。そしてもう一つが、学校に再び通えるようになったとき、私は変な目で見られたり、いじめられたりされるのではないかという恐怖です。二つめの恐怖に関しては幸いにも、登校できるようになったとき、友だちに温かい言葉をかけてもらい、以前と同様に学校生活を楽しむことが今もできています。私が味わった二つの恐怖には何の関係もないように思えるかもし

れませんが、私はこの二つには深い関係があると思います。というのも、一つめの恐怖が、二つめの恐怖である、「いじめ」を引き起こすからです。新型コロナウイルスとの闘いが始まって、もう一年半ほど経ち、たくさんのがわかってきましたが、ウイルスは目に見えないのでいつ感染するのかわかりません。これが私の感じた一つめの恐怖と似ている恐怖です。このような怖さがあるからこそ、実際に感染した人や、その疑いがある人に変な目が向けられ、差別する言葉を言われ、いじめに発展していくのだと思います。つまり、怖さが、「普通ではない人」への攻撃になるのです。私はこういったことを考えたとき、人々は、障害があるといった、「普通ではない方」をもっと受け入れ、生き方は一つではないということを入れて、もう普通という言葉を使わず、一人ひとりを尊重すべきだと思いました。みんな違って、みんなそれぞれで良い。みんな違って、みんなどうであったって良い。大事なのは相手はどうであるかではなく、それを受け入れ、尊重できる自分がいるのか、ということだと感じました。

人によって考え方は異なります。人を大切に大切にとずっと言われていますが、差別はなくなっていない。何が正解かわかりません。しかし、だからこそ考え続けて行かなければならない義務があると思います。私は先入観を捨てて、一人ひとりを尊重し、人権についてこれからも考え続けていきたいです。